

更新講習会・講習内容の確認について

令和3年度

登録番号		氏名	
------	--	----	--

次の記述について正しいものには○、誤っているものには×を付けてください

1. 【診断と補強について】

(ア) コロナ禍の中、現地調査時に於いてマスクを着用している為、冬場で寒かったので窓を閉めて調査を行った。

窓・ドアを開けて換気をさせて頂く (×)

(イ) 診断は原則、極めて稀に発生する地震動による倒壊の可能性の有無について実施する。

(○)

(ウ) 屋根は棧瓦葺きで土が無く比較的軽いので、「軽い建物」として診断を行った。

棧瓦葺きは壁の種類により「重い建物」または「非常に重い建物」 (×)

(エ) 「診断専用」として扱う塗厚 50 mmの土塗り壁は、新設の補強部材として使用できない。

(○)

(オ) 旧 38 条認定によるプレハブ工法の木造住宅であった為、枠組壁工法として診断を行った。

旧 38 条認定は適用範囲外 (×)

2. 【Q&A と判定会からの留意点について】

(ア) 現地調査の結果、全面裏返し塗りのない土壁だったが、片側が良好な状態であったため耐震診断では耐力壁と判断した。

木舞への定着が減少する為、非耐力とする (×)

(イ) 2階建ての木造住宅で壁端柱の柱頭・柱脚接合部の仕様について、ほぞ差しで通し柱の間の為、1・2階ともに接合部Ⅲとした。

(○)

(ウ) 耐震補強の際、土壁 (C) の荒壁をはつり小舞下地を痛めたが、下地は強度上重要ではないため、特に強度の低減は考えずに土壁 (C) の耐力を評価した。

評価出来ない

(×)

(エ)有開口壁について、評価できる開口部の壁長さは3 mを上限とする為、連続する長さ5 mの開口壁長の開口部は3 mと2 mに分けて評価した。

合算入力 (×)

(オ) 筋かい (L : 30×90 以上 シングル くぎ打ち) が存在している壁長が 650 mm であったので、筋かいを考慮して診断を行った。

900 以上 (×)

3. 「補強の問題点と注意事項について」

(ア) 耐震補強計画において、補強箇所は、補強の合理性、補強に係るコスト、又家主の希望も聞き決定した。

(○)

(イ) 無筋コンクリート造布基礎に生じているひび割れ (1.5mm) をエポキシ樹脂注入により補強した。

鉄筋コンクリート造の基礎に変える、鉄筋コンクリート増し打ちする

(×)

(ウ) 土塗壁が連続する短ほぞ差しの中間柱について、N値計算によって引き抜きが生じない箇所でも金物補強しない場合は、接合部 1 (低減なし) で計算することは控えたほうが良い。

引抜きが生じなければ金物の有無に関係なく接合部 I を使用できる (×)

(エ) 準耐力壁 (天井・床そのまま) 補強を用いることは、工事費抑制に寄与するが、補強壁直下の基礎、アンカーボルト、直上の梁を確認することが必須である。

(○)

(オ) 耐震補強工事において施工者は、不明な点がある場合、設計者 (工事監理者) に確認し、計画通り耐震性能が確保されるよう施工する。

(○)

開始から 15 分が経過しましたら、司会者から案内がありますので、それに従いお帰り頂いても結構です。

お忘れ物のないように、気を付けてお帰り下さい。本日は、お疲れ様でした。

考查時間内の退出は、お静かにお願いいたします